



くりはら

市議会だより

第79号

令和5年11月16日

令和4年度

まちづくりの決算を認定 2ページ

決算審査 ここが聞きたい 4ページ

一般質問 キャンプ場の運営など18人が登壇 9ページ

「私もひとこと」

後藤 忠義さん(鶯沢)・近藤 富士子さん(金成) 18ページ

「結」

(写真提供 迫桜高校写真部)

令和4年度

決算



令和4年度決算の審議状況

9月定例議会は、9月12日から10月4日までの23日間の会期で開かれました。一般質問には18人の議員が登壇し、市政全般にわたって論戦を展開しました。また、「栗原市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する条例」の一部改正条例や、補正予算などを審議し原案のとおり可決しました。令和4年度の一般会計、特別会計、事業会計の決算は、決算特別委員会を設置し集中審査の結果、原案のとおり認定しました。

令和4年度 一般会計の決算

歳入は、令和3年度に比べ、市税は2億93389万円増の76億7056万円。地方交付税は、1億2385万円減の188億281万円。県支出金は、6億7483万円減の22億3763万円。市債は、18億1100万円減の28億7230万円となりました。

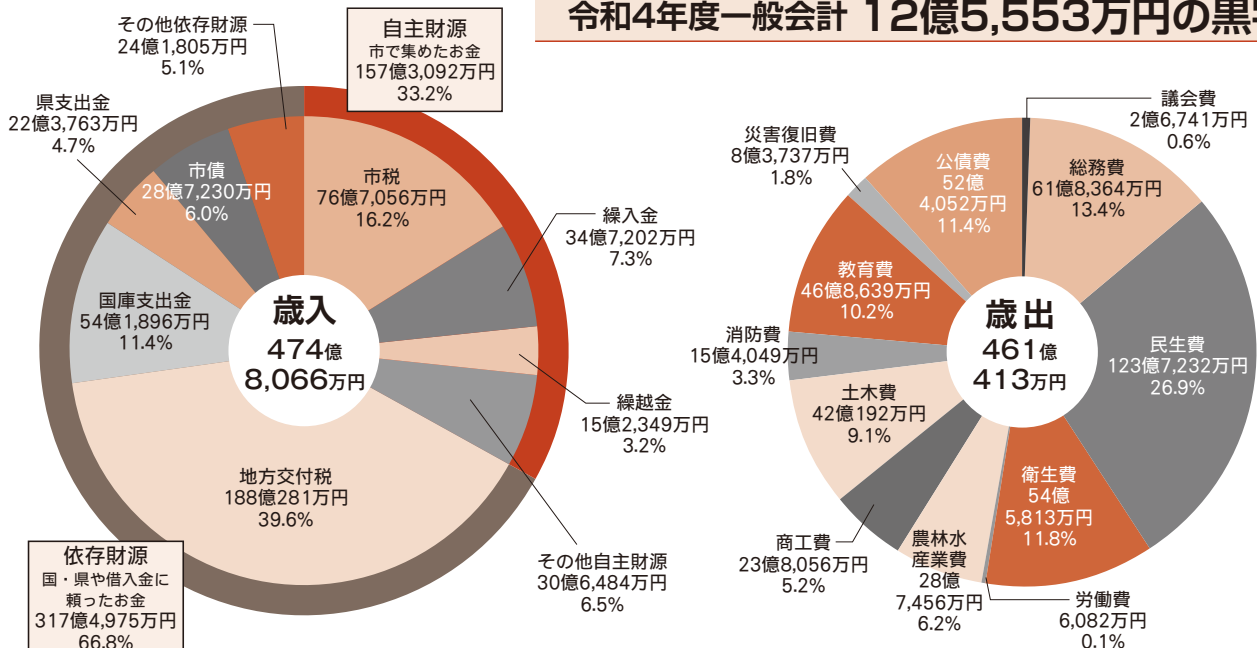
歳入は、総務費において、公共施設などを計画的に管理することを目的とする公施設最適化事業などに約61億8364万円。

民生費は、妊婦、出生の届出をおこなった世帯などに対し、出産育児関連用品の購入費用助成を目的とする出産・子育て応援給付金支給事業などにより123億7232万円。

教育費は、学校給食センター1改修等事業、少人数学級推進事業などにより46億8639万円となりました。

歳入歳出の差引額は、13億7653万円となりますが、翌年度への繰越額が1億2100万円、実質収支は、12億5553万円の黒字となりました。

令和4年度一般会計 12億5,553万円の黒字



ピックアップ

一般会計 議会の決算を見る

※市民1人当たりの支出額は令和5年3月末現在の栗原市の人口で計算しています。

議会インターネット
中継委託料 175万円

市民1人当たり支出額
28円

費用弁償
412万円

市民1人当たり支出額
66円

議員報酬
1億5,215万円

市民1人当たり支出額
2,428円

議会だより
439万円

市民1人当たり支出額
70円

令和4年度「政務活動費」の収支一覧表

(単位：円)

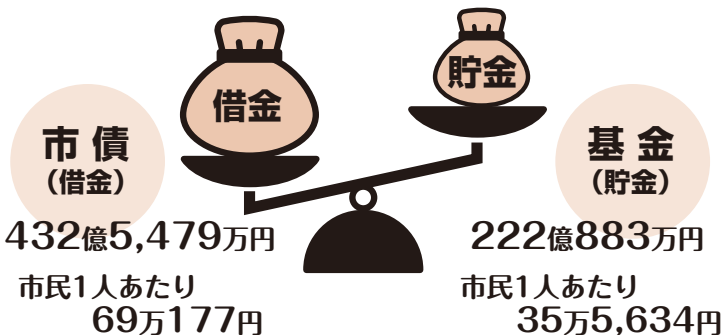
会派または議員名	市民くりはら	新清流	政策フォーラム	立憲・社民フォーラム栗原	五十嵐勇	三浦善浩	尾形勝通	菊地広志 ※会派所属	菅原麻紀 ※会派所属	合計	
人数	6人	5人	4人	2人	1人	1人	1人	(1人)	(1人)	20人	
交付決定額(当初)	1,200,000	1,200,000	1,200,000	600,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	5,700,000	
交付決定額(最終)	1,200,000	1,350,000	1,200,000	600,000	300,000	300,000	300,000	100,000	125,000	5,475,000	
支出項目	調査研究費	388,975	436,860	269,490		97,986	0	105,176	7,300	114,354	1,420,141
	研修費		33,270				61,540				94,810
	資料購入費		11,110				103,540	14,108			128,758
	事務費			26,856	26,856						53,712
支出額	388,975	481,240	296,346	26,856	97,986	165,080	119,284	7,300	114,354	1,697,421	
返還額	811,025	868,760	903,654	573,144	202,014	134,920	180,716	92,700	10,646	3,777,579	

- ・令和4年度は、資料作成費、広報広聴費、会議費、人件費、要請・陳情活動費に対するの支出はありませんでした。
- ・栗原市では申請を行った会派に、議員1人あたり月額2万5,000円を交付しており、使わなかった金額は年度末に返還することになります。
- ・日本共産党栗原市議団は政務活動費を申請していません。
- ・菊地広志議員、菅原麻紀議員は年度途中で会派に所属したため所属前に支出した金額が計上されています。

一般会計

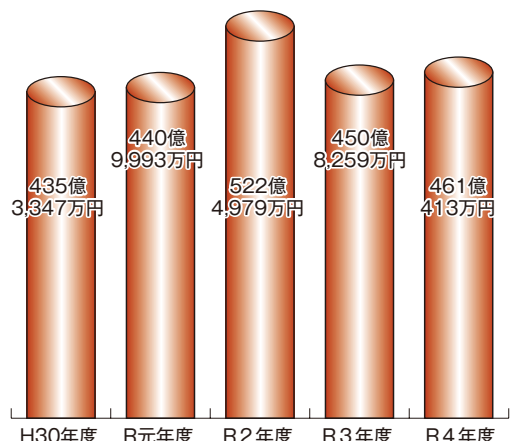
市債(借金)と基金(貯金)の状況

令和5年3月末人口：6万2,672人



※金額などは市の決算概要より引用しています。
※市債は国の交付税が算入(339億9,470万円)される分も含まれています。

5年間の一般会計歳出決算の推移



決算審査

ここが聞きたい



相馬勝義 委員長

歳入



問 コロナの影響で税収減だというが、どのくらい減収になったか。

答 前年度より5800万円減っている。要因としては、米価の下落と持続化給付金の終了によるものであると考える。

問 固定資産税収入が増えている要因は何か。

答 中小企業の固定資産軽減措置が令和3年度のみであったため、令和4年度は8200万円の増額となっている。

歳入



問 立木売り払い収入となる市有林は植林をしているのか。

答 市所有の森林は5年計画で植林している。

問 令和4年度の当初予算は4000万円だが、決算額は640万円となった。要因は何か。

答 一迫、花山地区を間伐予定だったが、入札不調だったためである。収入額は令和3年度に間伐し、令和4年度に販売された分である。

生活



問 道路の舗装打換や穴の開いたところは、すぐ対応できる仕組みか。

答 危険箇所については、情報提供することができ、本庁や支所でもすぐ対応できるようにしている。

問 カーブミラーの設置箇所や件数は決まっているのか。

答 設置箇所は4月に区長に聞き取り、警察と相談の上、現地確認をして決め、件数は決まっていない。

ふるさと納税



問 全国的に令和3年度より令和4年度が1.2倍の件数、金額になっているが、栗原市は予算に比べて3000万円の減額になっている理由は何か。

答 返礼品の数や種類が少ないこと、窓口となるポータルサイトも少ないとも感じている。令和5年4月より事業者に直接行って、参加してもらえよう努力している。また、新しいポータルサイトの協議も重ねている。

教育



問 基準以外でスクールの乗車を認めている学校数、人数はどのくらいか。

答 ほぼすべての学校で認めている。人数は148人(学校再編による人数も含む)である。

問 距離数は決まっているのか。特例はあるのか。

答 基本的に距離数は決まっているが、構成している集落単位でしっかり調べて細かく決めている。

公園



問 公園の除草作業はどこが窓口になっているか。頻度はどの程度か。

答 窓口は各総合支所となっている。大きさにより異なるが、年に2、3回は、刈り取り作業をしている。

問 天気により草刈りの頻度が変わると思うが、遠隔操作ができる草刈りロボットなどを購入する予定はないのか。

答 現在、購入予定はないが、検討したいと思う。

観光



問 WiFi設置は何か所になるか。

答 ハイムザーム栗駒、くりこまコテージ、温湯山荘、花山少年旅行村(コテージ、キャンプ場)延年閣の6か所になる。

問 CMの観光プロモーションの電波料金はいくらで、いつまで放映した分なのか。

答 550万円で9月から1月までの放映分になる。

子育て



問 特定不妊治療が対象になった人数はどれくらいか。

答 延べ15人であり、実人数は14人である。

問 赤ちゃん用品助成金の金額はいくらか。また、どのような形で助成しているのか。

答 3000円のクーポン券で12か月分を助成している。券の額面以下だとおつりが出ない形である。

決算

審査意見

代表監査委員 武田 孝一

令和4年度は、「市民が創るくらしたい栗原」の実現に向け、子育て施策、教育環境の整備などのほか引き続き新型コロナウイルス感染症対策事業に取り組みました。

近年、人口減少や少子高齢化の進行により、農業従事者の高齢化や商業従事者の後継者不足による空き店舗等の増加、さらには地域コミュニティの存続が困難になりつつある状況も見受けられる。行政のみでは解決できない課題が山積している現状であり、市民との協働による取り組みがますます必要となっている。

このような状況の中、厳しい財政運営は、今後とも予想されることから、市民と行政が相互理解のもと、市民協働によるまちづくりを推進する仕組みを確立し、「市民が創るくらしたい栗原」の実現を目指して第2次総合計画後期基本計画に基づく事業推進に期待する。

財政状況は、財源の確保や、事業の選択と集中により、確実に健全化が図られてきた。令和4年度は、健全化判断比率のさらなる改善が見られたもののエネルギーや物価高騰の影響から、光熱水費などの管理費が増加している。そのため、今後も厳しい財政状況となることとが予想される。将来にわたり安定的な財政運営が行えるよう、「第3次栗原市行政改革大綱」による取り組みを着実に実行し、必要な財源の確保、事業の見直しや選択と集中による歳出の重点化に一層努められたい。